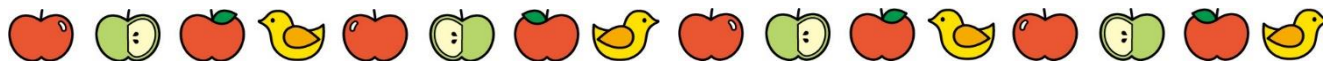


# ぽっかぽか りす組



11月に入り、朝の澄んだ空気の匂いや街のイルミネーションなどからも季節の移ろいを感じます。10月初めに保育室の中央扉が解放され、子ども達も環境に慣れてきました。

当初は今までと雰囲気が変わった部屋に目をキラキラさせ、テンションが上がる子も見られましたが、少しずつ落ち着き、それぞれのペースでゆったりと遊んでいます。また保育室を変えたことに併せて新しく絵本棚も設置すると、みんなの大人気コーナーに！今月の園便りではその絵本についてお伝えしていきます(\*^-^\*)



## ～ 絵本を通じて見た子どもの成長 ～

子ども達が大好きな絵本。ご家庭でもお子さんに読んでいる方も多いのではないのでしょうか？

冒頭にあるように園でも子ども達は絵本が大好きで、1日の中でどの子も必ずといっていいほど大人の膝の上で読み聞かせを楽しんでいる姿が見られます。この先、集団での活動が増えていくと大人が数人の子どもの前で絵本を読む形も増えてきますが、今は大人の膝の上で1対1の関係で読み聞かせを楽しむことを大切にしています。1対1で読み聞かせをすることで子どもにとってはクラスという集団の中で絵本を介して大人を“独り占め”できる時間になり、絵本の世界観を2人で楽しめるのです。

その時、周りにいる子ども達はどのようにしていると思いますか？「1歳だったら自分も読んでもらいたいはずだから、絵本を取り上げたりなどの邪魔をすることもあるのでは…」と考えるかもしれませんが、そんな姿が見られることは全くと言っていいほど見られないです。読んでもらいたい本があるときは側で順番を待つように座って待つことができる子たちを見ると本当に驚かされます。

ではなぜ待つことができるのか？それは待っていたら次に読んでもらえるということをわかっている＝“経験している”からです。ただ待つことと、読んでもらえるという見通しを持って待つこととは意味合いがずいぶん変わってきます。

このことは絵本の時間だけでなく、普段の生活の中でも見られます。遊びの時間や給食の時間など様々な場面で“待っていたら何か楽しいことがある”ということ子ども自身が経験を積み重ねていることが、今の子どもたちの姿に繋がっています。

ご家庭でも忙しい時間の中でお父さんやお母さんが読んでくれる絵本はお子さんにとってかけがえのないひと時です。その時間は自分の為の時間。そのときの絵本が自分の大好きな絵本であれば、なおさら素敵なお時間になると思います。その積み重ねは自分が大切にされている、愛されていることを実感し、自己肯定感にも繋がっていきます。読み方が上手い下手は関係なく、お父さんやお母さんが読んでくれるということが大切なので、大人も楽しんじゃおう！という気持ちでぜひ親子時間を楽しんでみてください(\*´ω`\*)ご自身が小さい頃好きだった本を読んであげるのもいいですし、本屋と一緒に探しに行くのも楽しいですよ。また園の絵本コーナーにはたくさんの絵本があるので、これからもたくさんの絵本を介して親子時間を楽しんでみてください！！